

患者様へ 検査データを用いた研究のお知らせ

①研究課題名	人工膝関節の生体内動作解析に関する研究
②対象者及び対象期間	2013年1月以降、新潟医療センターで人工膝関節置換手術を受けた患者さん
③概要	<p>変形性膝関節症は社会の高齢化とともに増加しています。症状が進むと骨や関節が傷み、大きく変形します。また膝も曲がりにくくなります。このような患者さんに対しては、膝関節を人工物に置き換える人工膝関節置換術が行われます。この手術は傷んで変形した関節を矯正し、膝を曲げやすくすることを目的としています。傷んだ大腿骨と脛骨の関節表面はそれぞれ金属製インプラントで置き換えられ、インプラントの間に脛骨インサートと呼ばれる高分子量プラスチック（ポリエチレン）の板が挿入されます。手術後の膝の曲がり具合は大腿骨インプラントと脛骨インサートの形状デザインによって制御されますが、実際の運動測定結果と比較した例は多くはありません。そこで本研究では、連続透視 X 線画像を用いて手術後の膝曲げ伸ばし運動を測定し、人工関節が実際にどのように動いているのかを調べます。</p>
④研究番号	2019-0285
⑤研究の目的・意義	<p>連続透視 X 線画像を用いて人工膝関節の運動を測定し、人工関節の形状と膝の曲げ伸ばし運動との関係について調べることを目的とします。この研究によって、人工関節の形状デザイン通りに膝が動いているのかがわかるようになります。また、人工関節の改良に役立てることが可能となります。</p>
⑥研究期間	2025年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	<p>測定した結果を解析するため、新潟大学へデータを提供しますが、個人が特定されないよう匿名化を行った後に行います。研究成果は国内外の学会で発表しますが、個人が特定される情報は含みません。データ提供を拒否したい場合は下記⑩に申し出て下さい。</p>
⑧利用または提供する情報の項目	<p>年齢、身長、体重、診断名、透視 X 線画像、骨形状モデル、人工膝関節形状モデルを提供します。</p>
⑨利用の範囲	<p>新潟医療センター、新潟大学医学保健学科および新潟大学大学院自然科学研究科において運動解析を行います（研究責任者：新潟大学医学部保健学科 小林公一）。</p>
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	<p>新潟医療センター 整形外科 佐藤 卓 新潟大学医学部 保健学科 小林公一</p>
⑪お問い合わせ先	<p>新潟医療センター 整形外科 佐藤 卓 電話：025-232-0111</p>